

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100509		
法人名	有限会社 ヒューム		
事業所名	グループホーム明日葉		
所在地	佐賀県佐賀市金立町大字金立1844-3		
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果市町村受理日	平成25年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成25年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活にメリハリを持ってもらえるよう、又認知症状の維持の為に利用者様の意見を取り入れ買い物支援、気候に応じた外出行事、ドライブ、月に1~2回の夕食を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周囲には田園が広がり、静かな住宅地に建っている。ホームの敷地には大きな庭園があり様々な庭木が植えられている。あずま屋や手すりが設置され、散歩しながら、様々な四季の変化を味わうことができる。入居者や家族の思いを、職員全員での共有に努め、日常生活の支援を行っている。また、公民館の利用や、幼稚園児達のホーム訪問、地域行事への招待を受けるなど、地域の理解も得て、交流も活発である。また、入居者の日常的な外出や、散歩・買い物・ドライブ等活動的な支援を通して、自立に向けた働きかけがなされ、その人らしい生活支援に努められている。入居者と職員の和やかな笑い声が聞こえてくるなど、明るく朗らかな暮らしを支援しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の目に留まりやすい所に掲示し、いつでも見て確認し常に理念を心掛けている。	誰が見ても、分かりやすい理念を作り、職員全体がいつも共有できるように、ホーム内に掲示している。また、ミーティングなど、あらゆる機会に、理念の振り返りや、意見交換を行い、理念共有の実践がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行っている行事へ参加したり、ホームにて行う行事へ参加してもらい交流を行っている。	幼稚園児と入居者の交流や、運動会など地域行事へ参加し、地域の方から、ホーム行事へ参加され、地域との交流が活発になされている。また、散歩の際に、声をかけてもらったり、野菜をいただいたり、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に地域からの意見や要望を取り入れたり、認知症状等について地域からの相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて毎日の行事の報告を行ったり、地域の方の意見を聞いたり相談に乗ってもらうなどして様々な意見交換の場となっている。	2カ月に1回の運営推進会議で、ホームからの報告とともに、参加者から、質問、意見、要望を受けて、双方向的な意見交換が行われ、サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方との連絡を常に行い、ケア内容や相談等積極的に行ったり、色々なサービスについての情報を得ている。	市の担当者とは、様々な相談への回答応答が得られている。双方の協力連絡関係作りがなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束についての研修を行い、職員間でも身体拘束をしない取り組みをしている。又、日中玄関、縁側、居室の施錠は行っていない。	職員全員が、身体拘束についての勉強等を通じて、認識の共有を図り、言葉の拘束についても、表現を工夫するなど、日々のケアを振り返り、拘束しないケアの周知徹底に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修や、施設内での研修を行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修へ参加をし、職員全員の周知を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関して十分な説明を行い、家族が疑問を残さないよう理解を得られるまで話し合いを行う。改定時は家族会を開き、説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、利用される事が少ない為、家族会等を通して意見や要望を聞き運営に反映させている。	3ヶ月に1回の家族会の開催や、家族個別の話も、時間をかけて聞くなど、意見要望を言ってもらえる機会と、雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等でし合いを行い反映させている。	業務終了ごとのミーティングや、機会があるごとに、職員同士の意見交換がなされている。職員からの意見が出し易い雰囲気作りを行い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1回自己評価を実施している。また、職員の勤務態度等を勘案しボーナス時に支給する金額を上げたり、資格等に率先して受ける職員に昇給や資格取得に掛かる費用の半分の会社を支払うようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を開き職員全員参加し知識を深めたり、外部の研修に交代で参加しミーティングの折に報告を行っている。研修及び資格取得等は職員に勤め費用の半分負担を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターが行っている同業者との交流会や研修に参加したり、グループホームの研修に職員が必ず参加して交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を聞きできるだけ取り入れていけるよう話し合いを行い、本人が安心して生活できるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いは、十分行きサービスについても要望があればできるだけ取り入れられるようにして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がほかのサービスに対しての要望があれば十分な話し合いを行い支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のやりたい事や希望を聞き、職員と一緒にいたり、手伝いなどを依頼するなどして関わりを持っている。また、入居者の方に習ってする作業等を取り入れている。例えば、調理の作り方等は本人に聞きながら作る場面をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会への参加や面会等を頻回に行ってもらえるよう、声かけを行ったり、ケアプラン作成時等に本人と共に支える話しをする事で家族がより一層親身になって関わってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により家族が同意すれば、馴染みの人との外出や面会を行っている。	友人知人の来訪を受けたり、馴染みの場所への外出やドライブに行くなど、入居者それぞれ本人の思いに沿った支援を行い、これまでの関係が継続されるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のほとんどの方が居間で過ごされており、元気な方が身体的に低下されている方の面倒を見るなどしてお互い支えあわれている。職員も常に声掛けを繰り返し行い孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、面会へ行ったり家族と連絡を取り相談等必要に応じて行っている。また、家族の方から相談されることもありアドバイスをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が希望することはできるだけ希望に沿えるよう努め、できないことは家族と話し合いを行い検討している。	入居者の思いや希望を聞いて、職員間で意向を共有し、支援を行っている。意向確認が困難な場合には、ご家族の協力も得て、本人の思いをくみ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らしについて本人より話を聞いたり、家族より聞いたりして情報を得て把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの心身状態や、有する能力に応じた生活の流れを把握し本人が安心して生活できるように援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を聞き、ミーティングなどにおいて職員間で話し合いを設け介護計画に反映している。	本人や家族との話し合い、職員の意見等から介護計画を作成し、職員全体で支援がなされている。また、計画の見直しは、その都度入居者主体の支援となるよう、修正変更が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個別に詳しく記録に残し、職員間の情報の共有を行っている。個別の記録を基に、介護計画の見直しを行っている。又、家族へ記録の開示を随時行っている。介護記録を見て涙されたり本人の生活が分かると喜ばれる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の意向や日々の生活に必要なサービスの受け入れを行い、訪問看護・歯科往診・マッサージ等、本人の希望や必要性がある場合は家族と話し合い行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	顔なじみの店員さんのいる店を利用して買い物を行い買い物に行かれた際は会話をすることを楽しみにされている。また、地域の方の声掛けにもスムーズに対応されるようになった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医により週1回の往診を受けられ、関係性もよく、適切な医療を受けられている。又、本人が希望した病院の受診は随時家族により行われている。	かかりつけ医や、他科への受診は、家族の協力で行われている。往診や受診など、状況に応じた適切な医療を受けられる支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の職員と情報の共有を行い、利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。状態悪化された場合は訪問看護に連絡を行って情報伝達も随時行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院後の情報交換は文書にて行われており、利用者・家族が不安にならないよう病院側より説明も詳しく行われている。また、入院中に職員の時間が取れる時に面会に行き状態把握に努めている。家族にも報告を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についての方針は家族・主治医と話し合いを随時行っている。又、ホーム内においてできる事についても家族・職員と話し合いを行っている。	入所時から、本人や家族へ、重度化や看取りの意向を聞き、状況に沿って、家族・主治医・ホーム全体での支援に努めている。職員間でも、看取りについての対応理解を共有し、支援に反映させている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の応急手当や対応の仕方については勉強会を行い職員間で周知をしている。また、訪問看護来荘時に指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・水害に備え避難訓練を2か月に1回行い年に2回消防署による立会にて指導を受けている。又、地域の方にも運営推進会議等で話し合いを設け協力を得られるように話を行っている。	夜間・昼間を想定した、自主避難訓練が、2か月に1回行われ、職員や入居者の意識も高まっている。地域への呼びかけで、協力体制が築かれ、火災以外の避難場所の確保や、避難経路も複数設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格などを理解しその人それぞれに合った言葉かけや対応を行って本人が不愉快に思われないような配慮をしている。	入居者の性格や思いをくみ取り、その人ごとの、言葉掛けに配慮をし、プライバシーが損なわれない対応に努めている。職員間でも、接遇研修等を通じて、その場にふさわしい言葉かけや、対応についての意識の共有を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞きできるだけ実行できるよう働きかけている。本人の誕生日などに本人が食べたい食事を聞いたり、買い物にて欲しい物を聞くなどして自己決定ができるよう行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人ができる事を見極めたり、やりたい事の希望を聞いたり、話しを行う事で本人のしたい事を優先できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる身だしなみは自分で行ってもらったり、着たい洋服を本人に選んでもらうなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁を使える方には職員と一緒に会話をしながら下準備を手伝ってもらったり、食後の後片付けを手伝ってもらっている。又、好みの味付けや希望の食事を随時間き献立に反映して提供している。	買物から調理配膳など、職員と一緒に入居者のできることを手伝ってもらい、食事を楽しむ支援を行っている。また、好みや希望に応じて献立も行い、時には家族も含めて外食に出向くなど、入居者の思いを反映させるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算を行い毎日の栄養を考えられた献立が立てられている。又、個々に応じてキザミ色ペースト食の提供を行っている。水分補給もお茶だけでなく、好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔ケアを行い、1週間に1回・歯科衛生士による口腔指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間帯おむつを使用されている方も日中は布パンツや紙パンツに交換しトイレ誘導も個々に合わせ行っている。個々により排泄パターンも違うためその人に合わせた排泄誘導を行い自立支援を行っている。	個々の排泄パターンに応じた、さりげない誘導を心がけ、日中はできるだけ布パンツ等に対応し、排泄の自立維持継続の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い、食物繊維の多い食事や乳製品等を食事に提供したり、毎日の歩行運動や体操を行い体を動かすように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を実施し、本人の希望を聞いた入浴を行っている。	入浴は毎日行われており、個々が自由に入浴を楽しむことができる。困難な人には、無理に入浴を進めず、自然な誘導を工夫するなどの支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中昼寝をしたい人は自室にて休まれたり、修身の時間も本人が休みたい時に休まれている。夜間帯皆さんよく眠られている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬の内容は服薬一覧表にてファイルに綴られて全職員がわかるようになっている。服薬時には声掛けを行い本人で飲める方は手渡しし、飲めない方は介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いなど本人ができる事は自分から手伝われたり、自分の仕事と思われ一生懸命、職員と一緒に言われている。嗜好品等で欲しいものがある場合は買い物に行き購入されている。楽しみ事、気分転換は希望により取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	行きたい場所への希望を聞き職員と一緒に出掛けたりしている。家族の協力にて地域の老人会に参加したり、顔馴染みの方と外出されている。	入居者の思いや希望を尊重し、馴染みの場所へ、職員と一緒にドライブや買い物・外食等へ出掛けている。また、困難な人も、状況に応じた散歩や外出ができるよう支援し、日常的な外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる人はお小遣い程度の金額を所持されており、買い物に行った際に欲しい物を購入されている。小銭等がわからない場合は職員が横で支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば、職員が電話を掛けて本人に渡す、手紙はなかなか書くことが出来ない為電話でのやり取りが多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の花を飾ったり、個々の居室にて会話等されそれぞれ過ごしやすい場所で過ごされている。又、季節に応じた貼り絵を飾ったり、温度調節や居室のカーテン等居心地のいい空間を提供するよう工夫している。	落ち着いたある民家改修型の建物で、床のワックス掛けや、壁の塗り替えをし、明るく清潔でゆったりと入居者が過ごせるよう、共有空間作りがなされている。また、季節感のある貼り絵や、四季の花を飾り、外出時の写真が見やすい場所に掲示されるなど、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の長椅子や洗面所の長椅子を利用して会話をしたり個々の居室にて会話をされ思い思い過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が使い慣れたタンスや、テレビ、布団、毛布等使い慣れた物を居室に置かれたり家族の写真飾りして本人が過ごしやすい空間を工夫されている。	入居者の好みのものを部屋に置いて、身近な人の写真を飾るなど、入居者が心地よく過ごせるよう配慮がなされている。また、それぞれの部屋へは、必ず声かけを行ってから入室するなど、プライバシーが損なわれない支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で一人でできる方はできるだけ自分で行ってもらおうよう本人に任せ、できない部分を援助するようにしている。トイレの場所、浴室の場所等共用で使用する場所はわかりやすいような環境づくりを行っている。		